

# 挑む

## リオ五輪出場！林勇氣選手に聞く 再び五輪の舞台へ

アーチェリー

8月5日(金)から21日(日)まで開催される、リオデジャネイロ五輪。アーチェリー競技で、川西市出身の林勇氣さんが出場します。今回は林選手に五輪への思いを聞いた他、市在住で全国的に活躍する小学生スポーツ選手を紹介。スポーツで夢に向かって挑戦し続ける、その姿を追います。詳しくは文化・観光・スポーツ課 ☎(740)1245へ。



### もう一度立ちたかった舞台 メダル獲得へ全力を出し切る

「子どものころは、活発で近所の空き地でよく走り回っていました。アーチェリーを始めたのは中学生の時から。きっかけは、アニメーション映画の『ロビンフッド』を見て憧れていたからなんです」  
リオデジャネイロ五輪でアーチェリー競技に出場する林勇氣選手。北京五輪以来、五輪出場は2度目です。

「五輪を本格的に意識し始めたのは高校生の時。4年前のロンドン五輪では代表に選出されず、再び五輪に出場することを諦めかけたこともありましたが、でも、悔しいという気持ちが入り込んでくる。どうしてももう一度この舞台に立ちたかったんです」  
約20年間続けてきたアーチェリー。ほとんど毎日練習を続けています。

「心技体が一つにならないとできないスポーツ。道具が一つ変わるだけで、うまくいかなくなることもあるので、とにかく練習するしかないんです。きついと感ずることもありますが、でも何よりアーチェリーが好きだから、続けることができるんだと思います。それと、いつもサポートしてくれる家族には感謝してもしきれないですね。時間があれば川西の実家に帰ってリラックスしています」  
ワールドカップなど、世界

を舞台に活躍し、昨年7月に開催された世界選手権大会では団体戦でベスト8に入賞。見事、五輪への切符を勝ち取りました。

6月23日には、林選手が所属する(株)堀場製作所を市長が訪問。市民などからの応援メッセージの寄せ書きを手渡しました。  
「こんなにたくさんの方の人からメッセージを頂き、本当にうれしいです。前回、五輪出場が目標でしたが、今回の目標は表彰台。これまで培ってきた力を出し切れば、チャンスは十分にあります。メダルを取って帰りたいと思います」

最後に、スポーツで頑張る子どもたちへ、林選手が今伝えたいことを聞きました。  
「子どものころから、練習ノートを付けているんです。読み返すと、目に見えて成長を感じることができ、自信になるのでお勧めです。また、目標は大きく持つてください。常に先を見据えることが、前へ進む原動力になるんです。苦しいことがあっても、乗り越えて、挑戦して欲しいですね」

## 特集 五輪は夢じやない

前回の大会では自分のプレーができなかった

悔しさをバネに挑み続け、再び勝ち取った五輪への切符

最年長としてチームを引っ張り、狙うは表彰台の頂上



**林 勇氣** 選手

Yuki Hayashi

(株)堀場製作所所属。明峰小学校出身。中学校の部活動でアーチェリーに会い、才能を開花させた。松蔭高等学校を経て同志社大学へと進学。日本代表選手として活躍を続け、北京五輪では団体8位入賞を果たした。



## 試合を想定した練習 ゴルフで頂点をめざす

船岡 誠志郎 選手



## レスリングの技を磨く ライバルに勝つために

原田 渚 選手

### トップレベルの技術と体力 全国大会2連覇をめざし練習に励む

今年で創部15年目を迎えた「猪名川レスリングクラブ」。現在、4歳から中学1年生まで65人が在籍し、実力のある選手を多数輩出しています。昨年の「全国少年少女レスリング選手権大会」で優勝した、多田小学校6年生の原田渚選手。同クラブに所属しています。

「兄がレスリングを習っていて、小さいころからお母さんと見学に来ていました。道場の端で、母を相手に見よう見まねでタックルの練習をしていたみたいです」

レスリングを始めたのは3歳のとき。自分から「やりたい」と話したそうです。「走り込みや筋力トレーニングはしんどいですが、技の練習やスパarringは楽しいです。得意な技は片足タックル。思った通りに決められるとうれしいです」

練習に打ち込む理由。それには、いつも全国大会で戦う同年のライバルの存在がある。

「練習は毎日しています。平日は学校が終わった後に打球練習場で、休みの日はゴルフ場でラウンドし、アプローチとパターを磨いています」

明峰小学校4年生の船岡誠志郎選手。昨年の「全日本小学生ゴルフトーナメント決勝大会（小学1〜3年生の部）」で全国優勝を果たしました。

ゴルフを始めたきっかけは、知人から子ども用のクラブを譲り受け、興味を持ったこと。2歳半で初めてクラブを握り、4歳でゴルフスクールの通い始めました。

初めて大会に出場したのは、小学1年生になった春。2回のチップインを決め、予選は通過しましたが、決勝では力が及ばず負けてしまったと船岡選手は振り返ります。

「その試合の表彰式で、優勝した選手がカップをもらっているのを見て。とても刺激を受け、僕も優勝したいと思うようになりました」

これまで、大会での優勝回は、小学1年生になった春。2回のチップインを決め、予選は通過しましたが、決勝では力が及ばず負けてしまったと船岡選手は振り返ります。

「その試合の表彰式で、優勝した選手がカップをもらっているのを見て。とても刺激を受け、僕も優勝したいと思うようになりました」

これまで、大会での優勝回は、小学1年生になった春。2回のチップインを決め、予選は通過しましたが、決勝では力が及ばず負けてしまったと船岡選手は振り返ります。

「その試合の表彰式で、優勝した選手がカップをもらっているのを見て。とても刺激を受け、僕も優勝したいと思うようになりました」

これまで、大会での優勝回は、小学1年生になった春。2回のチップインを決め、予選は通過しましたが、決勝では力が及ばず負けてしまったと船岡選手は振り返ります。

気持ちを崩さないプレイで  
自分の納得できるゴルフに挑む

# サポート制度と スポーツ施設を 紹介

## スポーツ施設 所在地と問合せ

- 総合体育館  
所在地 火打1丁目1-4  
問合せ ☎(759)9712
- 弓道場  
所在地 火打1丁目1-4  
問合せ ☎(759)9712
- 市民温水プール  
所在地 火打1丁目3-3  
問合せ ☎(755)0257
- 市民体育館  
所在地 向陽台1丁目11-1  
問合せ ☎(793)1888  
※7月31日までは☎(792)3508
- 市民運動場  
所在地 向陽台1丁目11-2  
問合せ ☎(793)1888
- 東久代運動公園  
所在地 東久代1-14  
問合せ ☎(757)6386

全国大会以上のスポーツの大会に出場する市民に激励金を支給しています(予選を通じてまたは成績による推薦を受けて出場するものに限るなどの条件あり。詳しくは、ホームページを参照)。

26年度までは「青少年全国大会等出場激励金」として、

スポーツで目標に向かって挑み続ける、小学生アスリート。市では、スポーツで全国的に活躍する市民に対して、激励金を支給する制度を実施しています。また、市内各地の社会体育施設では、個人・専用使用だけでなくスポーツ教室なども開催しています。

18歳以下の市民を対象に激励金を支給していましたが、27年度から「全国大会等激励金」になり、18歳以上の人も申請ができるようになりました。

また市内には、総合体育館などの社会体育施設があり、トレーニング室や武道室、研修室などの設備もあり、誰でも利用が可能です。

市民体育館は建て替え工事を実施。8月1日(月)に全面リニューアルオープンします(12ページ参照)。

総合体育館と市民温水プール、市民体育館でスポーツ教室「アミカル」を開催(20ページ参照)。親子で参加できる体操やアクアビクス教室など、子どもからおとなまで参加できるプログラムが用意されています。

## スポーツとふれあい 日々の生活を豊かに

文化・観光・スポーツ課長  
西川明宏



いよいよ8月5日にリオデジャネイロ五輪が開幕します。林勇気さんの活躍を期待することはもちろんのこと、トップアスリートが躍動する姿に日本中が感動することだと思います。

この五輪をきっかけに、スポーツに興味を持っていただけたらうれしい限りです。

スポーツとふれあうには3つの方法があります。するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツです。スポーツをして汗を流したり、スポーツを見て感動したり、あるいはスポーツする人を応援することは、日々の生活をより豊かに、充実したものにしていくのではないのでしょうか。

大きな大会で優勝をめざすよう

な競技スポーツや、健康で幸せに暮らせる“健幸”のために何歳になっても続けられるような生涯スポーツなど、ひとくちにスポーツと言ってもいろいろあります。

市内には、30種目の協会が所属する体育協会や、スポーツ少年団、各小学校区で活動するスポーツクラブ21など、何かスポーツに取り組むようになった時にはさまざまな場があります。

こんなスポーツがしてみたいと思ったときには、気軽に文化・観光・スポーツ課までお問い合わせください。

市民の皆さんが何歳になってもスポーツに親しみ、心も体も“健幸”でいられるような環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。



大川 美波 選手

足立 心和 選手

赤石 伊代 選手

山下 咲和 選手

## 抜群のチームワークで 4年連続の全国へ 北摂ガールズ

## 県の強敵にリベンジを果たすために プレッシャーに打ち勝つ

ワールドカップや五輪での、なでしこジャパンの活躍も記憶に新しい女子サッカー。「北摂ガールズ」は川西市、伊丹市、宝塚市、猪名川町の小学生で構成される、女子サッカーチームです。

3年連続で全国大会に出場し、昨年の成績は第3位。過去には優勝経験もあるなど、全国を舞台に、活躍しています。

小学4年生から6年生まで、現在の在籍数は25人。チームの中心となる6年生には、川西市出身の選手が4人います。山下咲和選手、赤石伊代選手、大川美波選手、足立心和選手です。

「お兄ちゃんがサッカーをしていたから」「友だちに誘われて」など、始めた理由はさまざま。今年も全国大会に出場し、頂点に立つという目標に向かって、チーム一丸で、練習に励んでいます。

「先輩たちが3年間続けて全国大会に出場しているの

で、4年連続出場をめざして頑張っています。でも、この記録をストップさせてはいけないというプレッシャーも、やっぱり感じています。」同チームでキャプテンを務める山下選手は話します。

全国大会に出場するためには、まず県大会でベスト8に入り、さらにその後の関西大会で5位以内になる必要があります。

重視しているのは、チーム内のコミュニケーションを強化すること。お互いに声を掛け、積極的にコミュニケーションを取りながら練習は続きます。

「この前、県のシード権をかけた試合があったんですが、決勝で終了間際にゴールを決められ、負けてしまいました。秋にある県大会で、そのチームともう一度対戦するかもしれません。全国へのプレッシャーに打ち勝ち、チームワークで次は絶対に勝ちます」